

## 海外進出へのヒント JICA中小企業海外展開支援

国際協力機構（JICA）の中小企業海外展開支援事業は、中小企業の製品・技術と途上国の開発ニーズをマッチングすることで海外進出を支援するという事業だ。同事業により海外進出のきっかけをつくった中小企業の動きを随時紹介する。

◇

日本テレソフト（東京都千代田区）は、世界でも数少ない点字プリンターや点字ディスプレイを専門とするメーカーだ。ハードだけでなく、点字の多言語対応などハード内に搭載するソフトも自前で開発できることが大きな強みとなっている。

現在、日本を含めた先進国では、ICT活用が進み、視覚障がい者の点字表示へのニーズは減ってきている。その一方、途上国では点字のニーズは根強い。視覚障がい者がさまざまな支援を受けるために点字を使えることが必要条件になっていることもある。そこで新たな成長のために東南アジア

への進出を決めた。

10年近く前から、徐々に進めてきたが、強力に後押ししてくれる存在を探すなかで、JICAの中小企業海外支援事業の存在を知った。金子秀明社長は「ODA（政府開発援助）は社会インフラなど大型プロジェクトだけだと思っていたので、中小企業にもチャンスがあった」と早速応募。3回目ようやく採用され、ベトナムで視覚障がい者の自立と社会参加を目的としたICT教育センターの普及・実証プロジェクトに参加することとなった。

同国の視覚障がい者は全人口約1億人に対し、約100万人いると言われる。同国の盲人協会は約3000協会存在する。「年金をもらうためには協会に入ることが必要で、さらに入会するには点字の取得が必須となっている」（金子社長）という状況だ。潜在ニーズが高いことから進出国として選んだ。

今回のプロジェクトは視覚障がい者の就労支援を目的に、ICT

# 点字表示、東南アで提供

## 1 日本テレソフト



日本テレソフトの点字プリンターが設置されたICT教室での授業

スキルを習得できる環境を整えるというもの。17年12月、ハノイにICT教室を、フエにサテライト教室を開設した。現在、合わせて36人が学んでいる。2カ月で技術を習得する教育プログラムとともに、点字プリンターと点字ディスプレイを教材として提供する。

金子社長は「同国で自社の製品やノウハウが標準化されれば、ビジネスとして広がる」と期待する。プロジェクトは19年3月まで。その後は、同国を拠点にサービスやメンテナンス、製造ができる体制を整えていく。

今回の支援が決まるまで2回応募に落ちている。福祉ではビジネスとして成り立たないと判断されたからだ。「自社だけでは難しいからサポートしてほしいと応募したのに」と悔しい思いもした。

だが、現在ではフエで個人向けに点字ディスプレイの販路が決まるなど少しずつだが、JICAの援助で間口が広がっていると実感する。ベトナムで蓄積した知見をベースに、今後はインドネシアやインドなど人口の多い国に3年おきでの進出を検討している。

（随時掲載）